

平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年2月9日

上場会社名 オリコン株式会社
 コード番号 4800 URL <http://www.oricon.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小池 恒
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員企業広報部長 (氏名) 日高輝明
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月12日

上場取引所 大

TEL 03-3405-5252

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	3,734	—	392	—	284	—	335	—
20年3月期第3四半期	4,436	△1.5	218	985.0	147	—	△169	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第3四半期	2,146.72	2,132.14
20年3月期第3四半期	△1,085.37	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭	円 銭	
21年3月期第3四半期	3,963	1,010	18.2	4,606.81				
20年3月期	3,870	703	12.7	3,140.92				

(参考) 自己資本 21年3月期第3四半期 720百万円 20年3月期 491百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
21年3月期	—	0.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,140	△11.8	510	167.0	400	643.4	400	—	2,557.90

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有
 新規 0社(社名) 除外 1社(社名 ORICON CNS INC.)
 (注)詳細は、4ページ定性的情報・財務諸表等「4. その他」をご覧ください。
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの
 ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
 ② ①以外の変更 無
 (注)詳細は、4ページ定性的情報・財務諸表等「4. その他」をご覧ください。
- (4) 発行済株式数(普通株式)
 ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第3四半期 156,378株 20年3月期 161,046株
 ② 期末自己株式数 21年3月期第3四半期 0株 20年3月期 4,710株
 ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第3四半期 156,365株 20年3月期第3四半期 156,315株
 ※平成20年6月20日付で自己株式全てを消却いたしました。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載した業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。
2. 当連結会計年度より、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い、四半期連結財務諸表を作成しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、米国の金融危機に端を発する世界的な金融資本市場の混乱や急激な円高の影響によって、製造業を中心に大幅な減産、雇用の縮小が行われ、景気後退が鮮明になる厳しい状況で推移いたしました。

このような状況下、当第3四半期連結累計期間において当社グループは、主力事業であるメディア事業のうち、特に成長著しいWEBメディア事業の強化・拡充を推し進めるとともに、モバイル事業の着うたフル[®]配信サービスについても収益の拡大に努めました。また、当社グループの情報収集力を活かし、データベース事業の新たな柱として書籍ランキングの発表を開始するとともに、音楽ソフト・映像ソフト・書籍のマーケティングデータをオンラインで提供するサービス「ORICON BiZ ONLINE」を平成21年3月に立ち上げるための準備に注力するなど、データベース事業の拡充にも努めました。

その結果、売上高は、前年同期と比べWEB広告と着うたフル[®]の売上が伸びたものの、子会社2社（フランクリン・ミント株式会社、ORICON CNS INC.）が連結除外になったことなどを主な要因として、前年同期比15.8%減の3,734,276千円となりました。なお、連結除外となった2社の売上高を除いて比較すると、前年同期比274,550千円増（8.2%増）となります。

一方、利益においては、書籍ランキングの開始や「ORICON BiZ ONLINE」の立ち上げなど、データベース事業拡充のための先行投資の発生、並びに内部統制関連費用等の管理系費用の増加等の減益要因があったものの、WEB広告や着うたフル[®]の売上増等の増益要因がそれを吸収して上回ったことによって、営業利益392,140千円（前年同期比79.6%増）、経常利益284,169千円（前年同期比92.6%増）を計上し、前年同期と比べ大幅な増益となりました。また、株式会社 oricon ME 及び ORICON CNS INC. の株式売却益215,727千円を特別利益として計上したことによって、当四半期純利益は335,672千円（前年同期は四半期純損失169,659千円）となりました。

当第3四半期連結累計期間の事業の種類別セグメント状況は、以下のとおりです。

(1) メディア事業

① WEBメディア事業

当社グループのサイトは、「オリコン」ブランドを活用することによって若い世代へポピュラリティー（人気・流行・評価）を訴求することを得意としており、広告業界で広告メディアとしての価値が高まっています。また、「Yahoo! JAPAN」へのエンタテインメント系ニュース提供を強化し、さらに平成20年5月より「mixi」へのニュース提供も開始したことによって、当社グループサイトへのユーザー誘導が促進されました。さらにコンテンツの拡充やサイトのリニューアルを継続的に行ったことも奏功し、平成20年12月度にPC向けサイトの月間ユニークユーザー数が1,330万6千人となり、前年同月比で349万9千人増（35.7%増）と収益の源泉となるサイト来訪者数が大幅に増加しました（ネットレイティングス社・サイトセンサス調べ）。このように、ブランドの強化、並びにサイト来訪者数の増加を主な背景として広告販売が拡大し、「ORICON STYLE」広告全体の当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比196百万円増（31.7%増）の814百万円となりました。

なお、WEBメディア事業に区分しておりました韓国子会社ORICON CNS INC.については、平成20年5月に株式を譲渡して連結除外となり、連結除外となるまでの売上高106百万円を当第3四半期連結累計期間において計上しましたが、前年同期には売上高828百万円を計上していたことから、前年同期比では722百万円減少しました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間のWEBメディア事業全体の売上高は、前年同期比526百万円減（36.4%減）の920百万円となりました。なお、WEBメディア事業全体の売上高からORICON CNS INC.の売上高を除いて比較すると、前年同期比196百万円増（31.7%増）となります。

②モバイル事業

着うた[®]と着うたフル[®]の当第3四半期連結累計期間の売上高は674百万円となり、前年同期比205百万円増(43.7%増)と大幅に増加し、この増加分が着信メロディーの売上減少分を上回ったため、当第3四半期連結累計期間のモバイル事業全体の売上高は、前年同期比108百万円増(8.2%増)の1,425百万円となりました。特に、平成20年9月よりユニバーサルミュージック株式会社およびエイベックス・グループ・ホールディングス株式会社の着うた[®]・着うたフル[®]配信楽曲が大幅に充実したことも売上を押し上げる要因となりました。

③雑誌事業

音楽系雑誌は堅調に推移したものの、キッズファッション誌「キッズスタイル」を平成19年10月発売号をもって休刊したことを主な要因として、当第3四半期連結累計期間の雑誌事業全体の売上高は、前年同期比48百万円減(4.6%減)の1,006百万円となりました。なお、前年同期の雑誌事業全体の売上高から「キッズスタイル」の売上高を除いて比較すると、前年同期比42百万円増(4.4%増)となります。

以上の結果、メディア事業全体の当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比467百万円減(12.2%減)の3,351百万円となりました。なお、メディア事業全体の売上高からORICON CNS INC.の売上高を除いて比較すると、前年同期比255百万円増(8.5%増)となります。

(2)データベース事業

音楽ランキング情報を中心とした有料オンライン提供サービス「真大樹」が堅調に推移したことを主な要因として、データベース事業全体の当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比19百万円増(5.3%増)の382百万円となりました。

なお、前年同期には、平成19年9月に事業撤退したフランクリン・ミント事業(通販事業)の売上高254百万円を計上しておりました。

※当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」等を適用しており、上記文中においては、前年同期比及び前年同期の数値を参考情報として記載しております。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は3,963,386千円となり、前連結会計年度末と比べ92,667千円増加しました。主な増減は、流動資産では現金及び預金の減少241,180千円、貸倒引当金の減少97,461千円、固定資産では投資有価証券の増加161,088千円等がありました。また、負債の部においては、短期借入金が612,500円増加したものの、長期借入金が778,200千円減少し、有利子負債は前連結会計年度末と比べ185,700千円削減されました。

純資産合計は、平成20年6月20日付で行った自己株式全ての消却、当四半期純利益335,672千円の計上、為替換算調整勘定の減少等が主な変動要因となり、前連結会計年度末と比べ306,670千円増加し、1,010,093千円となりました。また、早期に配当が可能となる体制を整えること等を目的として、平成20年6月27日付で資本準備金の額を減少させて利益剰余金を増加させ、繰越損失の削減を図っております。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末と比べ233,280千円減少し、450,107千円となりました。

営業活動により増加した資金は 251,304 千円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益 486,802 千円を計上し、そのうち 215,727 千円が子会社株式売却益であったことによるものであります。

投資活動により減少した資金は 294,881 千円となりました。これは主に、投資有価証券の取得による支出 238,900 千円、無形固定資産の取得による支出 129,012 千円、子会社（株式会社 oricon ME）株式売却による収入 160,000 千円、連結の範囲の変更を伴う子会社（ORICON CNS INC.）株式の売却による収入 95,560 千円によるものであります。

財務活動により減少した資金は 189,703 千円となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出 178,200 千円によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

現在、当社グループにおいては、WEB メディア事業と着うたフル[®]配信サービスが収益拡大のけん引役となっています。平成 21 年 3 月期第 3 四半期累計期間において、WEB メディア事業については「Yahoo! JAPAN」及び「mixi」へのエンタテインメント系ニュース提供を継続的に強化したことによって当社グループサイトへのユーザー誘導が促進され、WEB 広告の販売が好調に推移いたしました。第 4 四半期に入りましても、収益の源泉となるサイト来訪者数が平成 21 年 1 月度に PC 向けサイトが 1,316 万 4 千人（前年同月比 322 万 4 千人増、32.4%増）となり、成長を続けています。また、着うたフル[®]配信サービスについても、9 月よりユニバーサル ミュージック株式会社およびエイベックス・グループ・ホールディングス株式会社の配信楽曲が大幅に充実したことによって売上が伸び、堅調に推移しています。

一方、当社グループ全体の費用面については、各事業における原価及び営業費用が依然、抑えられて推移しております。また、音楽ソフト・映像ソフト・書籍のマーケティングデータをオンラインで提供する新サービス「ORICON BiZ ONLINE」については、平成 21 年 3 月にサービスを開始しますが、すでに平成 21 年 3 月期通期の連結業績予想において立ち上げ費用のみを計上し、売上については計画に盛り込んでおりません。当新サービスの収益は、平成 22 年 3 月期より連結業績に寄与する見通しです。

以上のことより、平成 21 年 3 月期通期の業績予想については、平成 20 年 11 月 11 日に発表しました予想数値に変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

ORICON CNS INC. については、株式を売却したため、連結の範囲から除いております。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第 12 号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第 14 号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

②たな卸資産の評価に関する基準の適用

「棚卸資産の評価に関する基準」（企業会計基準第 9 号）を第 1 四半期連結会計期間から適用し、評価基準については、原価法から原価法（収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）に変更しております。これによる損益に与える影響はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	450,607	691,788
受取手形及び売掛金	1,035,576	1,120,470
商品	9,123	9,102
仕掛品	14,533	14,394
販売用不動産	115,208	115,208
その他	430,049	285,173
貸倒引当金	△27,667	△125,128
流動資産合計	2,027,431	2,111,009
固定資産		
有形固定資産	177,188	162,103
無形固定資産		
のれん	126,601	134,125
その他	336,515	291,113
無形固定資産合計	463,116	425,238
投資その他の資産		
投資有価証券	733,004	571,916
その他	576,088	616,500
貸倒引当金	△17,056	△16,050
投資その他の資産合計	1,292,036	1,172,367
固定資産合計	1,932,341	1,759,710
繰延資産	3,613	0
資産合計	3,963,386	3,870,719
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	306,630	255,112
短期借入金	1,934,800	1,322,300
1年内償還予定の社債	36,000	200,000
未払法人税等	37,423	13,121
返品調整引当金	20,034	15,188
その他	427,205	526,991
流動負債合計	2,762,093	2,332,713
固定負債		
社債	144,000	0
長期借入金	47,200	825,400
退職給付引当金	0	9,182
固定負債合計	191,200	834,582
負債合計	2,953,293	3,167,296

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,078,450	1,078,117
資本剰余金	333	933,516
利益剰余金	△367,789	△1,465,125
自己株式	0	△171,853
株主資本合計	710,994	374,656
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	9,409	13,877
為替換算調整勘定	0	102,505
評価・換算差額等合計	9,409	116,383
少数株主持分	289,689	212,383
純資産合計	1,010,093	703,423
負債純資産合計	3,963,386	3,870,719

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位: 千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
売上高	3,734,276
売上原価	2,113,384
売上総利益	1,620,892
返品調整引当金戻入額	15,188
返品調整引当金繰入額	20,034
差引売上総利益	1,616,046
販売費及び一般管理費	1,223,906
営業利益	392,140
営業外収益	
受取利息	6,007
受取家賃	5,321
その他	2,923
営業外収益合計	14,252
営業外費用	
支払利息	39,330
支払手数料	27,666
持分法による投資損失	3,701
投資事業組合運用損	20,931
その他	30,594
営業外費用合計	122,224
経常利益	284,169
特別利益	
関係会社株式売却益	215,727
投資有価証券売却益	3,800
特別利益合計	219,527
特別損失	
固定資産除却損	12,194
投資有価証券評価損	4,700
特別損失合計	16,894
税金等調整前四半期純利益	486,802
法人税、住民税及び事業税	37,391
法人税等調整額	44,691
法人税等合計	82,082
少数株主利益	69,047
四半期純利益	335,672

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	486,802
減価償却費	124,822
のれん償却額	7,523
貸倒引当金の増減額(△は減少)	3,823
受取利息及び受取配当金	△6,007
支払利息	39,330
関係会社株式売却損益(△は益)	△215,727
売上債権の増減額(△は増加)	△80,410
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,191
仕入債務の増減額(△は減少)	51,517
その他	△117,595
小計	292,888
利息及び配当金の受取額	3,083
利息の支払額	△37,655
法人税等の支払額	△7,011
営業活動によるキャッシュ・フロー	251,304
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△85,586
無形固定資産の取得による支出	△129,012
投資有価証券の取得による支出	△238,900
投資有価証券の売却による収入	4,800
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	95,560
関係会社株式の取得による支出	△36,000
関係会社株式の売却による収入	160,000
貸付けによる支出	△109,445
貸付金の回収による収入	20,000
その他	23,701
投資活動によるキャッシュ・フロー	△294,881
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(△は減少)	12,500
長期借入金の返済による支出	△178,200
社債の発行による収入	175,934
社債の償還による支出	△200,000
株式の発行による収入	666
配当金の支払額	△604
財務活動によるキャッシュ・フロー	△189,703
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△233,280
現金及び現金同等物の期首残高	683,388
現金及び現金同等物の四半期末残高	450,107

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

- (4) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)

	データベース 事業 (千円)	メディア 事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	382,668	3,351,608	—	3,734,276	—	3,734,276
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	181,215	92,190	—	273,405	(273,405)	—
計	563,883	3,443,798	—	4,007,681	(273,405)	3,734,276
営業利益	85,189	712,959	△2,272	795,877	(403,736)	392,140

[所在地別セグメント情報]

当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成20年6月20日付で、保有する自己株式全て(171,853千円)を消却し、その他資本剰余金から同額を取崩しております。

また、平成20年6月27日付で、資本準備金(336,908千円)をその他資本剰余金に振替えた後、その他資本剰余金全額(765,055千円)を繰越利益剰余金に振替えております。

「参考資料」

前四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

科目	前年同四半期 (平成20年3月期 第3四半期)
	金額(千円)
I 売上高	4,436,262
II 売上原価	2,736,208
売上総利益	1,700,053
III 販売費及び一般管理費	1,481,755
営業利益	218,298
IV 営業外収益	25,343
V 営業外費用	96,115
経常利益	147,525
VI 特別利益	
投資有価証券売却益	21,945
子会社株式売却益	417,330
貸倒引当金戻入益	2,840
前期消費税修正益	20,964
特別利益合計	463,080
VII 特別損失	
固定資産除却損	19,525
投資有価証券評価損	1,031
関係会社株式評価損	4,498
事業撤退損失	236,058
のれん償却	183,558
持分変動損失	103,240
持分法による投資損失	112,841
特別退職金	12,605
特別損失合計	673,359
税金等調整前四半期純利益	△62,753
税金費用	133,060
少数株主損失	26,155
四半期純利益	△169,659

(2) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前年同四半期 (平成20年3月期第3四半期)
区分	金額 (千円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失	△62,753
減価償却費	144,079
のれん償却費	197,825
投資有価証券売却益	△21,945
子会社株式売却益	△417,330
事業撤退損失	236,058
持分変動損失	103,240
売上債権の増加額	224,177
たな卸資産の増加額	△5,023
仕入債務の増加額	△34,148
その他	135,850
小計	500,031
法人税等の支払額	△109,624
その他	△48,153
営業活動によるキャッシュ・フロー	342,253
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△90,203
無形固定資産の取得による支出	△122,885
投資有価証券の売却による収入	42,132
子会社株式の売却による収入	438,200
連結除外子会社の株式売却に伴う収入	160,156
その他	△11,016
投資活動によるキャッシュ・フロー	416,382
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の増減額	△574,931
長期借入れによる収入	300,000
長期借入金の返済による支出	△157,200
社債の償還による支出	△400,000
少数株主の増資引受による収入	103,000
その他	399
財務活動によるキャッシュ・フロー	△728,731
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,782
V 現金及び現金同等物の増加額	27,121
VI 現金及び現金同等物の期首残高	694,410
VII 現金及び現金同等物の四半期末残高	721,532

(3) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前年同四半期 (平成20年3月期第3四半期)

	データベース 事業 (千円)	メディア 事業 (千円)	フランクリン・ミント 事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高	538,804	3,908,722	254,234	4,701,762	(265,500)	4,436,262
営業費用	428,930	3,370,871	274,557	4,074,359	143,604	4,217,963
営業利益	109,873	537,851	△20,322	627,402	(409,104)	218,298

〔所在地別セグメント情報〕

前年同四半期 (平成20年3月期第3四半期)

	日本 (千円)	アジア (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高	3,607,831	828,430	4,436,262	—	4,436,262
営業費用	3,316,218	901,745	4,217,963	—	4,217,963
営業利益	291,613	△73,315	218,298	—	218,298

〔海外売上高〕

前年同四半期 (平成20年3月期第3四半期)

	アジア	計
I 海外売上高 (千円)	830,138	830,138
II 連結売上高 (千円)	—	4,436,262
III 連結売上高に占める海外売上高の割合 (%)	18.7	18.7